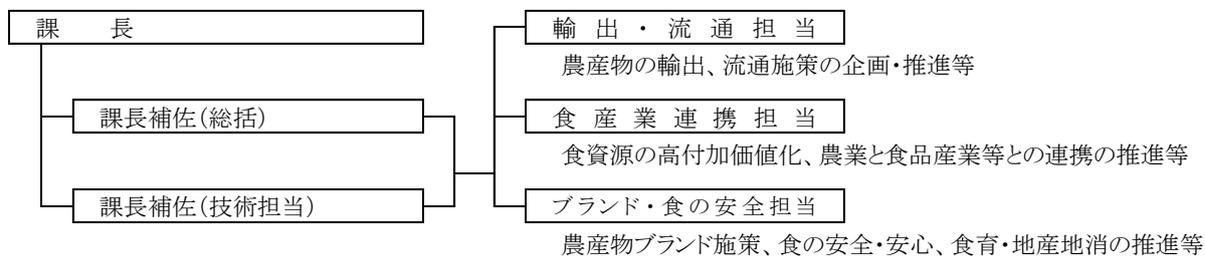


## 農業流通ブランド課

### 1 令和8年度の新規・重点事業

- **みやざき輸出産地ステップアップ支援事業**      25,525 千円【輸出・流通担当】  
生産者や商社等をつなぐネットワークの場を創出し、新たな輸出産地づくりに要する経費を補助するとともに、香港事務所等を活用した販売促進を支援する。
  
- **みやざきLFP強化支援事業**      48,483 千円【食産業連携担当】  
多様な農や食の関係者が協働した新たな商品やサービスの開発など、新ビジネス創出に向けた取組を支援する。
  
- **信頼で支える食の県産県消推進事業**      8,652 千円【ブランド・食の安全担当】  
地場産物を活用した料理教室や農業体験等の食育活動の取組を支援するとともに、農林水産物直売所への出荷者等に対して、適正な食品表示の啓発を行う。
  
- **みやざきブランドファン拡大事業**      32,223 千円【ブランド・食の安全担当】  
みやざきブランドの商品を体験するイベント等の開催やデジタルツールを活用したみやざきブランドのファン拡大に繋がる取組を支援する。
  
- ⑨ **みやざき農産物フェアプライス理解促進事業**  
2,629 千円【ブランド・食の安全担当】  
農産物の合理的な価格（フェアプライス）の実現に向け、産地の取組を探るプロジェクト等を実施し、生産者と消費者双方の理解醸成を図る。

## 2 組織



## 3 主な事業一覧

事業名	終期	R8 予算額 (千円)	担当	掲載 P
みやざき輸出産地ステップアップ支援事業	R8	25,525	輸出・流通	20
持続的な農の物流構築事業	R8	6,496	輸出・流通	21
地域資源高付加価値化ビジネス総合支援事業	R8	18,122	食産業連携	22
みやざき L F P 強化支援事業	R9	48,483	食産業連携	23
信頼で支える食の県産県消推進事業	R9	8,652	ブランド・食の安全	24
みやざきブランドファン拡大事業	R9	32,223	ブランド・食の安全	25
国際水準 G A P 実践支援事業	R9	14,041	ブランド・食の安全	26
Ⓞみやざき「食」のもったいない実践事業	R10	7,100	ブランド・食の安全	27
Ⓝみやざき農産物フェアプライス理解促進事業	R10	2,629	ブランド・食の安全	28

# みやざき輸出産地ステップアップ支援事業

農業流通ブランド課 25,525千円  
【財源:その他、一般財源】

## 事業の目的

輸出に取り組む生産者や事業者等の連携を促し、輸出に対応した新たな産地づくりを支援することで、輸出額の持続的な拡大を目指す。

## 事業の概要

### (1) 事業内容

- ① 輸出産地創出支援（補助率定額）  
産地や商社等をつなぐネットワークの場づくり、輸出に取り組む生産者等のスタートアップを支援
- ② 大規模輸出産地モデル形成支援（補助率定額）  
生産から流通・販売までの輸出ルート構築する県域の大ロット産地づくりを支援
- ③ 輸出産地プロモーション支援  
県香港事務所等の機能を活用し販路開拓を支援



### (2) 事業の仕組み

① 県補助 → 協会、民間事業者    ② 県補助 → 民間事業者等    ③ 県委託 → 県物産貿易振興センター等

### (3) 成果指標

ネットワーク参加を通して輸出額が増加した農業団体・法人等  
 現状（令和4年度） - → 令和8年度 9事業者  
 農畜水産物輸出額 現状（令和4年度）112億円 → 令和8年度 130億円

## 事業の期間

令和6年度～令和8年度

# 【別紙】 みやざき輸出産地ステップアップ支援事業

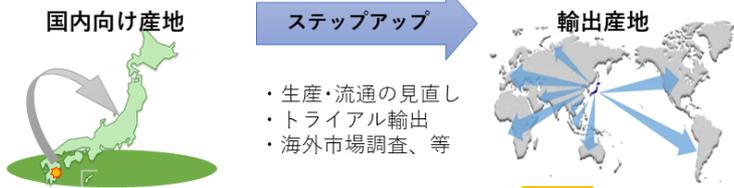
## ①輸出産地創出支援

- ネットワークの場づくり  
輸出に取り組む生産者等の資質向上、事業者間の情報共有やマッチング



輸出に意欲あるプレイヤーの掘り起こし

- スタートアップ支援  
輸出に取り組む生産者等のはじめの一步を支援



産地間の広域連携

## ③輸出産地プロモーション支援

- 香港事務所等の機能活用  
市場調査、商談支援、認知度向上の取組をとした輸出産地づくり支援



商談や輸出の実務を支援

現地バイヤーとの連携強化



オールジャパンの施策と連動したプロモーション



Eコマースを活用した販売ルートの構築

連携

連携

## ②大規模輸出産地モデル形成支援

- 県域の大ロット輸出産地づくり  
 【生産対策】 海外のニーズや規制に対応した生産の大規模化、産地間連携等  
 【流通対策】 梱包や輸送ルート等流通の改善等

【販売対策】 ニーズ調査・販促等



大ロット輸出専用産地づくり



梱包など流通方法の検証



輸送方法の転換



バイヤーとの商談・求評会の開催



現地ニーズに即した販売・販路開拓

# 持続的な農の物流構築事業

農業流通ブランド課 6,496千円  
【財源:国庫、一般財源】

## 事業の目的

物流ドライバーの不足や時間外労働規制、カーボンニュートラルへの対応を踏まえ、本県農産物を安定的に供給するため、持続可能で効率的な輸送体制を構築する。

## 事業の概要

### (1) 事業内容

- ① 農の物流革新推進事業（補助率定額）
  - ・ 地域物流改革チームの設置や中長期計画の策定を支援
  - ・ 物流人材の育成を支援
  - ・ 物流イノベーション実証に要する経費を支援
- ② 農の物流改革補助金（補助率定額、1/2以内、1/3以内）
  - ・ 地域内横持ち経費やパレット経費を支援
  - ・ モーダルシフトへの転換を支援
  - ・ 物流効率化の機器整備を支援

### (2) 事業の仕組み

- ① 県補助 → みやざき農の物流DX推進協議会
- ② 県補助 → 民間事業者等

### (3) 成果指標

品目別集出荷施設の集約 現状（令和4年度）43箇所 → 令和8年度 32箇所



## 事業の期間

令和6年度～令和8年度

# 【別紙】 持続的な農の物流構築事業

## ①農の物流革新推進事業

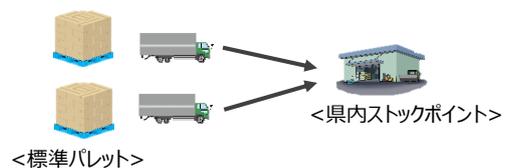
主体：農の物流DX推進協議会  
+  
物流コンサル

- ① 地域物流チームの支援
- ② 物流計画の策定支援
- ③ 物流人材の育成
- ④ 物流イノベーション実証



## ②農の物流改革補助金

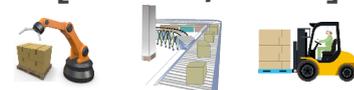
- 1 集約の横持ち、パレットの経費支援  
[補助率 定額]



- 2 モーダルシフトへ転換  
[補助率 1/2 以内]



- 3 省力機器の整備  
[補助率 1/3 以内]



持続的な農産物輸送体制の構築

# 地域資源高付加価値化ビジネス総合支援事業

農業流通ブランド課 18,122千円  
【財源:国庫、一般財源】

## 事業の目的

6次産業化をはじめとする農山漁村発新ビジネスの創出や地域ぐるみの6次産業化推進など、地域資源の高付加価値化に取り組む事業者・地域を、取組初期から経営改善まで段階に応じて総合的に支援する。

## 事業の概要

### (1) 事業内容

- ① 農山漁村発イノベーション対策事業
  - ア 農山漁村発イノベーションサポート事業  
6次産業化をはじめとする農山漁村発新ビジネスに取り組む事業者に対するプランナー派遣等
  - イ 商品開発・販路開拓支援事業（補助率1/2以内）
- ② 業務用(toB)商品開発モデル実証事業  
都市圏における業務用(toB)需要調査及びtoB向け商品開発による経営改善を実証
- ③ 地域ぐるみの6次産業化推進事業  
商社設立へ向けた専門家派遣



### (2) 事業の仕組み

① 県 委託 → 県産業振興機構、県 補助 → 農林漁業者等 ②③ 県 委託 → 民間事業者

### (3) 成果指標

業務用(toB)商品開発による経営改善モデル実証数 現状(令和4年度) 0件 → 令和6～8年度累計 9件  
地域ぐるみの6次産業化取組件数(商社設立数) 現状(令和4年度) 2件 → 令和8年度 6件

## 事業の期間

令和6年度～令和8年度

# 【別紙】 地域資源高付加価値化ビジネス総合支援事業

地域資源の高付加価値化に取り組む事業者

事業内容

地域

### 農山漁村発イノベーションサポート事業



幅広い事業者を対象とする経営改善を目的とした専門家派遣

- 取組初期からの伴走支援により事業計画が安定する事業者
- 経営見直し等で小売用(toC)商品により収益増が可能な事業者
- toC商品では収益増が難しい事業者

負担の少ない toB向け商品へ転換

### 業務用(toB)商品開発モデル実証事業

- ・都市圏における業務用(toB)需要の調査
- ・専門家アドバイスによる実需に併せたtoB商品の開発
- ・都市圏実需者と本県事業者間のマッチング
- ・toB商品開発による事業者の経営改善の実証

### 地域ぐるみの6次産業化推進事業

- ・地域ぐるみの6次産業化推進のための商社設立に向けた専門家派遣

モデル事例の実証効果をもとに 事業者支援へ活用

### 業務用(toB)商品開発の取組による経営改善の実証



### モデル事例の創出

- ・首都圏でのBtoB商品の実需を見える化
- ・専門家によるマーケットイン視点での助言
- ・事業者の経営改善効果を見える化

【実証例】 高級スパークル惣菜、PB商品



効果

事業者の発展段階に応じた支援による効率的・効果的な所得の増加

物価高騰の影響を受けにくい経営体質へ転換

# みやざきLFP強化支援事業

農業流通ブランド課 48,483千円  
【財源:国庫、寄附金、一般財源】

## 事業の目的

新たな商品やサービスの開発など、多様な農や食の関係者が協働して新たなビジネスを創出する「みやざきLFP」の活動を強化し、本県の農林水産業が抱える課題解決と地域経済の活性化を図る。

## 事業の概要

### (1) 事業内容

#### ① 新ビジネス開発・実践強化事業

- ア 新商品・サービスの開発支援（補助率定額、上限額200万円）
- イ 商品・サービスのブラッシュアップ実践支援
  - ・ブラッシュアップ支援（補助率1/2以内、上限額100万円）
  - ・機械・施設整備支援（補助率1/3以内、上限額300万円）

#### ② みやざきLFPビジネスサポート事業

- ア LFPプラットフォームの運営
- イ 企業コラボ等による販売・PRサポート

### (2) 事業の仕組み

- ① 県 LFP取組実践組織
- ② 県、県 産業振興機構、民間事業者

### (3) 成果指標

LFP取組実践数 現状（令和5年度）21件 → 令和9年度 44件  
新ビジネス創出数 現状（令和5年度）30商品・サービス → 令和9年度 85商品・サービス



## 事業の期間

令和7年度～令和9年度

## 【別紙】

# みやざきLFP強化支援事業

みやざきLFPによる  
持続的な食料システムの実現



## みやざきLFP

多様な業種の知見・経験・技術が結集した  
プラットフォーム

### ① 新ビジネス開発・実践強化事業

#### ア 新商品・サービスの開発支援

- ・新商品・サービスの試作品開発や実証等に対する支援

NEW

#### イ 商品・サービスのブラッシュアップ実践支援

- ・ブラッシュアップ支援  
…商品・サービスの実践を踏まえ、その改良・改善に必要な取組に対する支援
- ・機械・施設整備支援  
…商品・サービスの実践に向け、農産物等の安定供給や品質向上、効率化等に必要な機械・施設の整備支援

### ② みやざきLFPビジネスサポート事業

#### ア LFPプラットフォームの運営

- ・研修会・ワークショップ等の企画・開催

#### イ 企業コラボ等による販売・PRサポート

- ・販促フェアの実施や展示商談会の出展サポート等

# 信頼で支える食の県産県消推進事業

農業流通ブランド課 8,652千円  
【財源:国庫、一般財源】

## 事業の目的

地場産物を活用した料理教室や農業体験等の食育活動を通して、県民に県産農林水産物の魅力を発信するとともに、食品事業者や農林水産物直売所への出荷者等に対する適正な食品表示の啓発活動により、県産県消の推進を図る。

## 事業の概要

### (1) 事業内容

- 信頼で支える食の県産県消の推進（補助率定額、1/2以内）
  - ・ 食育ティーチャー等による料理教室や親子等対象の農林水産業体験、啓発イベント、食育活動実施者研修会開催等の支援
  - ・ 市町村等が実施する食育・地産地消の推進に係る活動の支援
  - ・ 食品表示研修会の開催や専門家派遣による表示制度の普及啓発



### (2) 事業の仕組み

- 県補助 → みやざきの食と農を考える県民会議・市町村等、県委託 → 民間企業、県

### (3) 成果指標

地場産・宮崎県産を意識して購入する県民の割合 現状（令和5年度）74% → 令和9年度 80%  
出荷者等へ適正表示の啓発を実践している直売所数（延べ） 現状（令和5年度）— → 令和9年度 54店舗

## 事業の期間

令和7年度～令和9年度

# 【別紙】 信頼で支える食の県産県消推進事業

## ① 食農体験や啓発イベントの開催

- ・ 食育ティーチャーによる料理教室の開催
- ・ 親子を対象とした農林水産業体験の実施 **NEW**
- ・ 啓発イベント等の開催



県民が県産農林水産物に触れる機会を創出し、県産県消の意識向上を図る。



## ② 食育活動実施者の育成 **NEW**

- ・ 食育活動実施者を対象とした研修会の開催

食育活動実施者の資質向上を図る。



## ③ 食品表示研修会の開催

食品事業者や行政職員を対象とした研修会や個別相談会の開催により、制度の普及・啓発を図るとともに、表示作成者の意識向上と指導者の資質向上を図る。



## ④ 専門家派遣による現地指導の実施 **NEW**

県産県消の拠点である農林水産物直売所において、表示の専門家派遣による現地指導を行い、制度の理解促進と表示の適正化を図る。

委託先	株式会社
委託内容	表示の専門家派遣による現地指導の実施
委託期間	令和7年度～令和9年度
委託費用	100万円
委託場所	県内全域
委託開始	令和7年度
委託終了	令和9年度



県産農林水産物へ触れる機会の増加

食品表示の適正化による県民の信頼度の向上

地場産・県産農林水産物の魅力アップによる  
県産県消に対する意識の向上

# みやざきブランドファン拡大事業

農業流通ブランド課 32,223千円  
【財源:国庫、寄附金、産業廃棄物税基金、一般財源】

## 事業の目的

みやざきブランドの新たなマークの周知や、みやざきブランドの商品に対する消費者の関心を高めることでファンを拡大し、購入意欲の向上や安定販売につなげ、持続可能なブランド産地の実現を図る。

## 事業の概要

### (1) 事業内容

#### ① 特長をいかしたファン拡大事業（補助率 1 / 2 以内）

- ア デジタルツールを活用した情報発信と特典の提供によるファンの拡大
- イ 商品の特長を体験するイベント等の開催
- ウ 新たなマークを打ち出した量販店での販売促進
- エ 認知度調査による効果検証

#### ② 時代のニーズに対応した商品創出事業（補助率定額）

- 大学等との連携による特長を付加した商品創出の支援



みやざき ブランド Quality	健康	おいしさ	グリーン	高品質
オリジナリティ				

### (2) 事業の仕組み

- ①②県 みやざきブランド推進本部等
- ①②県 民間企業等
- ①県

### (3) 成果指標

みやざきブランドの購入者（1品以上）の割合 現状（令和5年）56% → 令和9年 65%  
購入者のうちみやざきブランドマークと認知している人の割合 現状（令和5年）— → 令和9年 25%

## 事業の期間

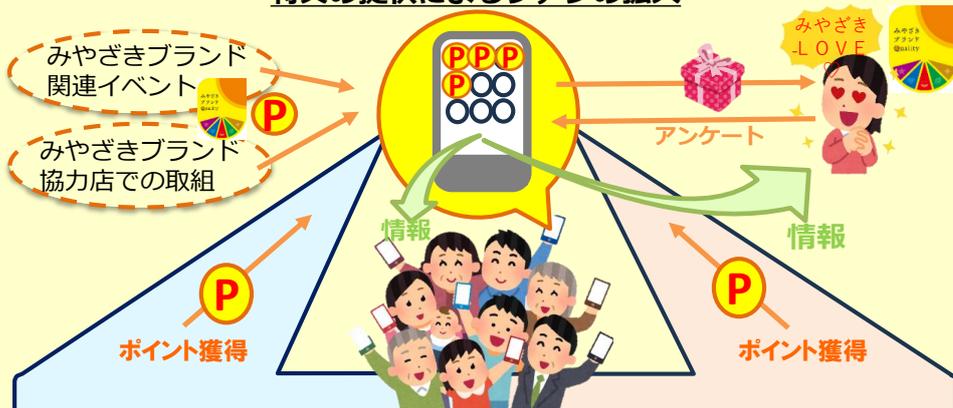
令和7年度～令和9年度

## 【別紙】

# みやざきブランドファン拡大事業

### ①特長をいかしたファン拡大事業

#### ア デジタルツールを活用した情報発信と特典の提供によるファンの拡大



#### イ 商品の特長を体験するイベント等の開催



空港等での「旬」の発信

レストラン等でのPR

#### ウ 新たなマークを打ち出した量販店での販売促進



量販店でのフェア

惣菜でのPR

### ②時代のニーズに対応した商品創出事業

大学等との連携による特長を付加した商品創出の支援

#### 専門家



健康に着目した商品の創出  
科学的根拠資料の作成  
機能性表示食品の届け出支援

#### 産地



安全・安心活動の実施

イベント等による取組PR

新たな商品の創出に向けた産地協議

# 国際水準GAP実践支援事業

農業流通ブランド課 14,041千円  
【財源:国庫、産業廃棄物税基金、一般財源】

## 事業の目的

本県農業の持続可能な成長に向け、JGAPやGLOBALG.A.P.等の認証取得や国際水準GAPガイドラインに準拠したMIYAZAKI-GAPの実践による生産基盤の強化を図る。

## 事業の概要

### (1) 事業内容

- ① JGAP等認証取得支援事業（補助率定額）
  - ・GAP指導員の確保、能力向上
  - ・JGAP等認証審査費用の補助
- ② MIYAZAKI-GAP実践支援事業
  - ・MIYAZAKI-GAPの運営
  - ・GAP実践の支援

### (2) 事業の仕組み

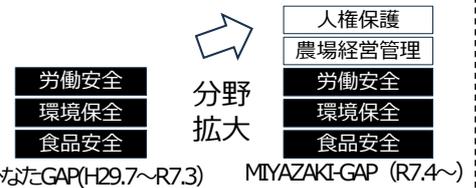
- ① 県、県  団体等
- ② 県、県  植物防疫協会

### (3) 成果指標

国際水準GAPを実践する経営体数 現状（令和5年度）331経営体 → 令和9年度 1,000経営体

### MIYAZAKI-GAPとは

- ・GAP（農業生産工程管理）は、農作物を作る際に適正な手順や資機材の管理等を行い、リスクの削減や生産管理の向上を図る取組。
- ・国は食品安全、環境保全、労働安全、農場経営管理、人権保護の5分野を満たす我が国独自の取組基準として国際水準GAPガイドラインを策定し、都道府県での普及を推進。
- ・県は、令和7年度から国際水準GAPガイドラインに準拠したMIYAZAKI-GAPを運用開始。



## 事業の期間

令和7年度～令和9年度

## 【別紙】

# 国際水準GAP実践支援事業

### ①JGAP等認証取得支援事業

#### ○認証取得の支援

- ・シンポジウムの開催
- ・GAP指導員の確保、能力向上
- ・JGAP等認証審査費用の補助

GAPの目的、優良事例等の  
情報発信による理解醸成



（農業者向け）

取得するGAPに応じた支援



- JGAP
- ASIAGAP
- GLOBAL G.A.P.

### ②MIYAZAKI-GAP実践支援事業

#### ○MIYAZAKI-GAPの運営

- ・MIYAZAKI-GAP認証の審査
- ・GAP普及の推進、産地活動の支援

#### ○GAP実践の支援

- ・啓発資料の作成、実践マニュアル等の周知



（農業者・産地など）

（審査員）

# 改 みやざき「食」のもったいない実践事業

農業流通ブランド課 7,100千円  
【財源：産業廃棄物税基金】

## 事業の目的

食育活動等による啓発活動により、食品ロス削減に対する意識向上を図る。

## 事業の概要

- (1) 事業内容
  - みやざき「食」のもったいない実践事業（補助率定額）
    - ・食育活動を通じた食品ロス削減啓発
    - ・県民参加型の食品ロス削減啓発
- (2) 事業の仕組み
  - 県、県  みやざきの食と農を考える県民会議
- (3) 成果指標
 

食品ロスを削減するための取組を行っている人の割合  
現状（令和6年度）81.5% → 令和10年度 85.0%



もったいないを広げよう！

## 事業の期間

令和8年度～令和10年度

# 【別紙】 改 みやざき「食」のもったいない実践事業

## 食育活動を通じた食品ロス削減啓発



食育ティーチャーによる活動



学校での活動



食育シンポジウム等での啓発



## 県民参加型の食品ロス削減啓発



キャンペーンによる県民の実践促進

実践し  
SNSで応募



New

SNSにより  
実践事例が波及



啓発ブック作成による  
理解醸成

# 新 みやざき農産物フェアプライス理解促進事業

農業流通ブランド課 2,629千円  
【財源：国庫、一般財源】

## 事業の目的

農産物の合理的な価格（フェアプライス）の実現に向け、産地の取組を探るプロジェクトの実施やシンポジウムの開催により、生産者と消費者双方の理解醸成を図る。

## 事業の概要

### (1) 事業内容

#### ① 農産物フェアプライス支援事業

- 学生と連携した産地の取組を探るプロジェクトの実施
- フェアプライスに関するシンポジウムの開催

### (2) 事業の仕組み

- ① 県 委託 民間企業等

### (3) 成果指標

学生と連携したプロジェクトの実施数

現状（令和7年度） → 令和10年度 3件

### フェアプライスへの理解促進！

学生と連携した産地の取組発信「プロジェクト」の実施



生産者と消費者をつなぐ「シンポジウム」の開催

## 事業の期間

令和8年度～令和10年度

# 【別紙】新 みやざき農産物フェアプライス理解促進事業

## ①学生と連携した産地の取組発信「プロジェクト」の実施

- 学生が中立的な視点で産地のリアルを伝える



### ◎現地体験

- ・ 学生が栽培から収穫までの工程を体験
- ・ 生産者に高騰する生産コストや気候変動に対応する工夫・努力を直接ヒアリング

### ◎デジタル発信

- ・ 記事や動画を制作し、産地の魅力や生産者の努力を紹介。
- ※「高騰する生産コスト」「気候変動への対応」などテーマ別コンテンツを作成。
- ・ InstagramやTikTokなど若者向けSNSで発信

## ②生産者と消費者をつなぐ「シンポジウム」の開催

- つながる食卓と畑～持続可能な農業と私たちの暮らし



### ◎産地からのメッセージ

- ・ 生産者から持続可能な農業のあるべき姿を発表

### ◎学生が見た産地のリアルを発表

- ・ 学生が取材で感じたことを発表
- ・ SNS発信事例や制作したコンテンツの紹介

### ◎消費者等とのディスカッション

- ・ 持続可能な農業の実現に向けて生産者と消費者等の役割をみんなで考える

育てる人も、売る人も、買う人も、農業の価値をみんなが理解！  
合理的な価格（フェアプライス）による持続可能な農業を推進